

いちょう通信

平成 26 年 10 月（第 9 号）

発行 社会福祉法人 八王子いちょうの会

〒193-0834 東京都八王子市東浅川町 666

TEL 042-673-8055 / FAX 042-673-8054

第3回すすかぜ祭

いちょう工房虹 寺嶋範雄



最初に実行委員長として、お話を頂いた時は自分に務まるか不安になりました。実行委員会を重ねる度に八王子いちょうの会が一丸となり、次第に形になっていきました。

当日は、多くのお客様にお越し頂き、模擬店、アトラクション、バザーと賑わいました。また、ステージでは大道芸・マンドリン・フラダンス・オカリナが披露され、会場は大変盛り上がりました。お祭りは大盛況のうちに模擬店の販売も終了し、無事に終わる事が出来ました。

最後に様々な方々に支えられ、無事にすすかぜ祭が終わる事が出来た事に感謝します。



第三者評価 受審のご報告

第三者評価とは？

理事長 崎田京子

- ・社会福祉法人等の提供するサービスの質を事業所及び利用者以外の公正・中立な第三者機関が専門的かつ客観的な立場から評価を行うもの。
- ・メリットは、自らが提供するサービスの質について改善すべき点を明らかにし、取り組みの具体的な目標設定を可能とするとともに、評価を受ける過程で、職員の自覚と改善意欲の醸成、課題の共有化が促進されること。また、利用者等からの信頼の獲得と向上が図れる。

当法人は、平成 25 年秋～冬にかけ始めてこの制度を利用しました。今回の評価機関は「医療福祉経営研究所」と言う所です。評価の講評については、各事業所職員会議にて行われました。

各事業所ほぼ共通した「良い点」としては、ポスティングや公園清掃などの作業について「地域資源を活用し、社会参加の機会につなげている」と言う事が挙げられていました。「さらなる改善が望まれる点」としては、「事業所における取り組みの意義について職員が共通理解を深める事」が各事業所で挙がっていました。前年度の事業内容の振り返りをきちんとした上で、反省点や改善点を翌年度の目標として反映させる事。事業所が達成できた事や、取り組むべき課題が示される事業報告・計画となる様に検討する事などでした。評価結果についてはしっかりと受け止め、支援向上に役立てていきたいと思っています。また、この結果は「とうきょう福祉ナビゲーション」にて公表されていますので、どうぞ一度検索してご覧下さい。

研修委員会報告

研修委員長 渡辺 優作



6月24日、川原経営総合センターより斎藤様・新井様を講師に迎え平成26年度の第1回法人全体研修が行われました。

今回の研修では「支援記録の書き方」をテーマに冒頭の講義をはじめ、個人ワークやグループワークを通してこれまでの記録の書き方を振り返ると共に、支援記録のあり方や意義について学ぶ良い機会となりました。

講義の中で「支援記録は業務のエビデンス（根拠）」というお話がありました。支援記録から職員による支援や記録に対する考え方が読み取れ、個別支援計画との関連性を振り返ることが出来ます。そうした事は記録す

る上で基本的なことですが、この点について改めて考え、今後の記録のあり方に活かしていければと思います。



「いちょう工房ゆぎ」は就労継続B型と生活介護の多機能型事業所です。就労継続B型では袋作業や箱折りをを行い、生活介護では制作活動(自主製品など)やポスティングなど行っています。双方が忙しい時は職員同士チームワークを取り助け合い、利用者さんの喜びなどを共有し日々楽しく過ごしています。

ここでゆぎの職員をご紹介します。守屋施設長、土淵、戎、坂本、田中、岡田、久保田、金子、常世田、津秦、芹沢、水谷です。(写真は左から、土淵、戎、坂本、金子です。)

様々な行事でお世話になりますが職員一同よろしくお願いします。

■ いちょう工房 東浅川

6月20日(金)21日(土) すまいるグループ、6月27日(金)28日(土)スカイグループ、7月17日(木)18日(金)クローバーグループ、3グループに分かれて初めての1泊旅行に行きました。

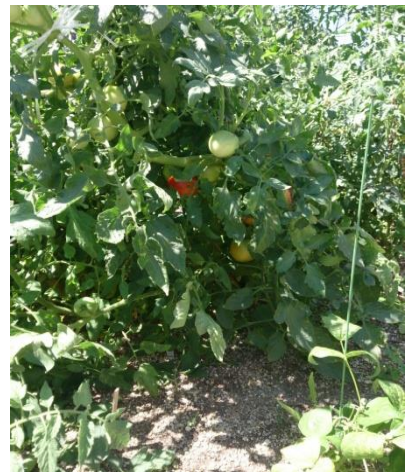
行き先は大井川鉄道のSL乗車と箱根宿泊、ふじやまりゾートぐりんぱです。SLの中では美味しいお弁当を食べて、窓から入ってくる爽やかな風を感じながらの乗車となりました。広大な景色の中には、大井川やそれを囲む緑、芸術的と言えるような茶畑、皆さん変化する景色を楽しそうに眺めていました。

宿泊した箱根高原ホテルは源泉掛け流しの温泉です。皆さん日頃の疲れが取れると喜んで浸かっていました。2日目は、ぐりんぱに向けて出発しました。ぐりんぱは富士山2合目にあり、ウルトラマンやシルバニアファミリーが人気のテーマパークです。3グループに分かれて旅行した事により、皆さん乗りたい物や行きたい所に何回も行き、とても楽しめたようでした。

作業所に着くと「SL楽しかった!」「次はどこに行くの?」など、たくさんの感想が出ました。皆さん笑顔がいっぱいの楽しい旅行になりました。

■ いちょう工房 虹

東浅川の屋上の畑を借りてナスやトマト、枝豆やいんげん、ニラやほうれん草の栽培を行っています。以前から職員が行っていた事ですが4月からは日中活動の一部に加えて班ごとに水やり、草取り、収穫を利用者さんが中心になって行っています。夏は日差しの強い中、栽培も大変ですが、大きく実ったナスやだんだん赤く色付いてきたトマトの収穫に胸を踊らせて暑さも吹き飛んでしまい毎日行きたいと言う方もいらっしゃいます。収穫した野菜は、お味噌汁に入れて美味しく食べています。枝豆収穫のあとに秋には何が取れるか、今から楽しみです。



■ ケアホーム「アイビー」、ショートステイ「ふ・ふ・ふ」

法人内初の居住部門である「アイビー」と「ふ・ふ・ふ」も開設から2年が経過し、基本的な生活面では、利用者さん皆さんが落ち着いた生活を送れるようになっています。

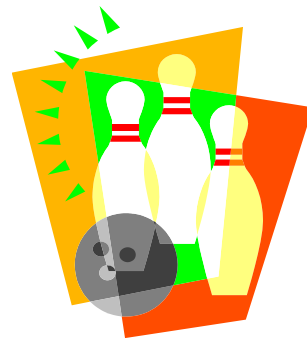
そこで次の段階としてただ落ち着いた生活だけでなく、普通のご家庭で味わえるような誕生会やクリスマス会等のイベントや外出・外食を実施し、生活の彩りを利用者さんに感じていただけるように職員一同考え、実行しています。

またこの8月から新たな利用者さんが入居されました。その方が早く慣れていただけるように、先輩の利用者さんも声をかけたりしながら職員と一緒にがんばっています。



招待ボーリングについて

6月・7月に高尾スターレーン様（コカコーラ様協賛）、SAP日野様よりボーリングの日、チャリティボーリングにご招待いただきました。
皆さん思い思いにボールを投げ、ピンが倒れるととてもうれしそうでした。
ご招待いただき、ありがとうございました。



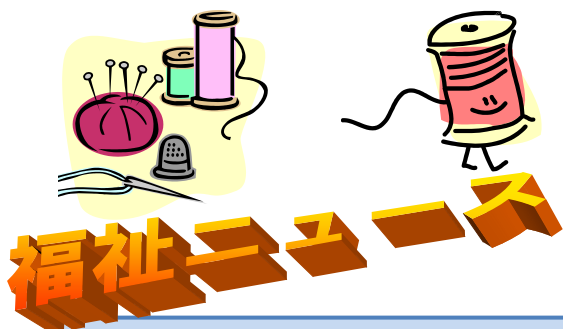
週末余暇支援活動の報告



7月12日（土） 台町八王子市民センターの調理室にてカレーライスの調理実習を行ないました。参加33名（利用者さん16名、ヘルパー15名、その他2名）は6グループにわかれて、近くのスーパーに食材の買出しに出かけ、じゃがいも、にんじん、たまねぎ、肉、サラダ用の野菜、マヨネーズなどを購入したら、調理スタート！ 食材を洗って、切り分ける作業に取り組みます。包丁を上手に使える人もいれば、お皿を洗う担当の人、それを温かく見守る人、などなどそれぞれの役割で実習に参加できたと思います。中には、以前家事のお手伝いをしていた人が意外な手際を披露したりなど、驚きの発見が場を盛り上げてくれたことも。出来上がったカレーはグループごとに味比べして、美味しくいただきました。食後は場所を移して、音楽に合わせて軽く体を動かしてのリラックスタイムでした。最後には食事マナーについての簡単なクイズで、おなかと体と頭をフル活動した一日でした。

自主製品いろいろ

いちよう工房ゆぎ



刺し子が得意なIさんです！

刺し子は福祉まつりやイベントで販売しています。

「社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会」法人格返上について

「八王子市手をつなぐ親の会」の上部組織、「社会福祉法人 東京都知的障害者育成会」の更に上部組織である「社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会」が、法人格を返上することになりました。障害者の権利を守り、家族を含めてその生活や福祉の在り方を考える「社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会」活動が、社会福祉法人の枠組みに合わなくなったためと報告されています。

会報誌『手をつなぐ』は数年前に刷新し大変読みやすくなりました。非常に参考になったので会報誌がどうなるか心配でしたが、新たに設立された「全国手をつなぐ育成会連合会」より発行が継続されています。また、国への政策提言、情報発信、本人活動支援などの必要な事業も「全国手をつなぐ育成会連合会」が引き続き行ないます。

（社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会 平成26年3月24日お知らせより一部引用）

（文責 崎田京子）